

教科	科 目	単位数	学年・クラス
商業	ソフトウェア活用	3	3年 地域探究コース

1 使用教材

使用教科書	ソフトウェア活用
出版社	東京法令出版
副教材等	-
出版社	-

2 学習の目標

商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
--

3 評価の観点・方法

評価の観点	内 容
① 知識・技能	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び，企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価方法	観点別重要度			主な評価項目
	①	②	③	
学習状況の観察	B	B	A	毎時間の課題（問題集）
提出物	C	B	A	ファイルを定期考査毎に提出
ペーパーテスト	A	A	C	定期考査、確認テスト
検定試験	A	B	C	全商ビジネス文書実務検定、全商情報処理検定

※表中の A・B・C は評価の重要性を高い順に表している。

4 学習計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい
1 学 期	1 章 企業活動とソフトウェア活用 1 節 情報の集計 2 節 情報の分析 3 節 シミュレーション 4 節 オペレーションリサーチ 5 節 手続きの自動化 2 章 データベースソフトウェアの活用 1 節 データベースの重要性	・企業活動におけるデータの集計・分析・シミュレーションの意義を理解する。 ・オペレーションリサーチなどを通して、合理的な意思決定の方法を学ぶ。 ・業務効率化に向けた手続きの自動化の考え方と活用方法を理解する。 ・データベースの重要性と役割を理解する。 ・リレーショナルデータベースの仕組みと基本的な設計方法を学ぶ。
2 学 期	2 節 リレーショナルデータベースの概要と設計 3 節 データベースの作成と操作 4 節 手続きの自動化 3 章 情報システムの開発 1 節 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発 2 節 データベースソフトウェアによる情報システムの開発 4 章 業務処理用ソフトウェアの活用 1 節 グループウェアの活用 2 節 給与計算ソフトウェアの活用 3 節 仕入・販売管理ソフトウェアの活用	・データベースの作成・操作および業務効率化に向けた活用方法を身に付ける。 ・表計算ソフトやデータベースを用いた情報システムの基本的な開発方法を理解する。 ・業務課題の解決に向けたシステム構築の考え方を身に付ける。 ・グループウェアや業務ソフトの役割と活用方法を理解する。 ・給与計算や販売管理など、実務に即したソフトウェアの活用力を身に付ける。 ・業務の効率化と正確性向上の重要性を理解する。
3 学 期	5 章 情報システムの基礎 1 節 情報通信ネットワークの導入と運用 2 節 情報資産の保護	・情報通信ネットワークの仕組みと導入・運用の基礎を理解する。 ・情報資産の保護やセキュリティの重要性を理解し、適切に対応する力を養う。